

選択したシラバスのプレビュー画面です

平成28 年度

[↑ 操作ボタン](#)
講義科目名称 : **ボランティア論**授業コード : **12021**

英文科目名称 : ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	講義	2単位	
曜日時限			
前期: 月曜2限			
配当学科・学年			
人間1			
担当教員			
河合 将生			

授業テーマ	近年、活発化するボランティア活動について考えながら、ボランティアとは何かを学び、「私たちができること」を見つける。
講義概要	ボランティアについての基礎・入門的内容を学習します。 ボランティア活動に関連した考え方や重要な論点をわかりやすく解説しながら、こうした活動がいかに国際社会や日本社会において重要であるか、その現状と課題、今後の展望を、さまざまな事例を紹介しながら学びます。
到達目標	1. ボランティアとは何か、その基礎知識を得る。 2. ボランティア活動の事例紹介やそれに関連した討議を通して、ボランティアの意義や社会の中で果たす役割等を習得する。 3. ボランティアの意義や社会の中での役割、事例紹介を通じ、自分の考え方を構築し、「私たちができること」についてヒントを得て行動に移すきっかけを見つける。 4. 机上の勉強だけでなく、実際にさまざまなボランティア活動に関わり経験した中から、ボランティアとは何かを考えることができるようになる。
評価方法	課題提出（レポート）50% 授業時の提出物（コミュニケーションペーパー）や授業時の発言やグループディスカッション等への参加度50%
評価基準	ボランティア（活動）とは何か、その歴史や基本的な概念、重要なキーワード、ボランティアをめぐる社会の動向について簡潔に説明することができる（可）、受講生の将来あるいは現在の生活に密接に関連する分野においてどのようなボランティア活動がおこなわれ、どのような役割をはたしているのか、基本的な説明ができるとともに、授業内容を踏まえ自分の考えを述べることができる。（優・秀）。
テキスト	講義内容に沿った配布資料を使用する。
参考書	岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会2009年 内海成治・入江幸男・水野義之編『ボランティア学を学ぶ人のために』世界思想社1999年 秦辰也著『ボランティアの考え方』岩波ジュニア新書・岩波書店1999年など、その他、必要に応じて紹介する。
履修上の注意	1. 授業には積極的に参加し、与えられた課題に取り組むこと。 2. 本講義は、基礎知識を得るとともにできるだけ実践を重んじるため、できるだけこの講義を通じて、自分にあったボランティア活動を見つけたり、関心をもったボランティアプログラムに参加したりしてもらいたい。また、講師が勧めるさまざまなプログラムにも積極的に参加してほしい。
準備学習	普段から新聞記事やニュースに触れ、ボランティア活動をはじめ、政治・経済・社会・文化に関する情報収集も行っておくことによって、幅広く多様なボランティアについての理解が深まります。
オフィスアワー等	授業終了時に質問に対応する。また、教員宛にメールで質問や相談を送る形での対応も行う。
備考・メッセージ	国際社会はもとより日本社会や身近なコミュニティの中でも、ボランティア活動が果たす役割はますます大きくなり、多様な活動が行われていきます。そうした事例を知りながら、受講生の皆さん一人ひとりにとって魅力的な、応援したくなる活動を見つけ、行動につながるきっかけづくりを、授業を通してできたらと考えています。

授業計画					
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標	
1	講義	河合	授業の概要と導入、すすめかた、目標等について講義と学習のオリエンテーション	授業の概要と目標を理解する 授業のための準備内容が理解できる	
2	講義	河合	「ボランティアとはそもそも何か」をテーマに、重要なキーワードや考え方について学ぶ（その1）	ボランティア、市民活動、社会運動、市民・住民運動、NPO/NGOなどのボランティアの多様な形態を理解する 社会変革、オルタナティブ、アドボカシーなどのキーワードを理解する	
3	講義	河合	「ボランティアとはそもそも何か」をテーマに、重要なキーワードや考え方について学ぶ（その2）	「ボランティアとは何か」が簡潔に説明できる	
4	講義	河合	ボランティアの歴史（その1）	日本におけるボランティアの歴史についてその概要を理解する ボランティアの歴史が簡潔に説明できる	
5	講義	河合	ボランティアの歴史（その2）	海外におけるボランティアの歴史についてその概要を理解する	

				ボランティアの歴史が簡潔に説明できる		
6	講義	河合	ボランティアと社会の関わり (その1)	ボランティア概念の変化を社会の動向とあわせて理解できる		
7	講義	河合	ボランティアと社会の関わり (その2)	ボランティア概念の変化を社会の動向とあわせて理解できる 受講学生の将来あるいは現在の生活に密接に関連する分野においてどのようなボランティア活動がおこなわれ、どのような役割をはたしているのか、簡潔に説明することができる。		
8	講義	河合	ボランティアの鍵概念、ボランティアを求める人間の心理に関するレクチャー、前半の振り返り	共生、自治、参加、市民社会、ボランティアリズム、ソーシャルイノベーションなどの鍵概念について理解を深める 社会的なアプローチではなく、心理的なアプローチからボランティアという人間の行動を理解することができる		
9	講義	河合	ボランティア活動を支援・振興する施策の変化とその背景—政府・行政における状況	最近のボランティアをめぐる社会の動きが理解できる		
10	講義	河合	ボランティア活動を支援・振興する施策の変化とその背景—教育機関における状況	最近のボランティアをめぐる社会の動きが理解できる		
11	講義	河合	ボランティア活動と社会福祉、医療・保健分野	受講学生の将来あるいは現在の生活に密接に関連する分野においてどのようなボランティア活動がおこなわれ、どのような役割をはたしているのか、簡潔に説明することができる。		
12	講義	河合	ボランティア活動と災害支援、国際交流・協力分野	受講学生の将来あるいは現在の生活に密接に関連する分野においてどのようなボランティア活動がおこなわれ、どのような役割をはたしているのか、簡潔に説明することができる。		
13	講義	河合	ボランティア活動とまちづくり、教育、文化、スポーツ分野	受講学生の将来あるいは現在の生活に密接に関連する分野においてどのようなボランティア活動がおこなわれ、どのような役割をはたしているのか、簡潔に説明することができる。		
14	講義	河合	ボランティアを始めるにあたっての留意事項に関するレクチャー	どのようにボランティアを探せばいいのか、何に留意して決めるとよいかを理解できる		
15	講義	河合	総括（学習到達目標の確認ならびに補足的説明）	本講義全体の学習到達目標がどの程度達成できているのか、自分自身で理解することができる。 今後の大学生活のなかでどのようにボランティア活動をおこない、社会に対する貢献と自己の成長につなげていくのか、計画立てを行うことができる。		

授業方法

学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
------	----	-----------	------------	-------

閉じる